

経産省前テントひろばニュース

テント強制撤去から3311日原発再稼働糾弾!

第319号

編集・発行

テントひろば運営委員会

今年の9/11は脱原発を目指すテントひろばの結成14周年! 経産省前抗議行動に集まろう!!

日時:2025年9月11日 午後2時-4時(予定)

場所:霞が関の経済産業省本館前の歩道

プログラム

13時40分~オープニング音楽・朴保さん

14時・主催者挨拶—以下はいずれも予定。

- ・今の福島を振り返る(武藤類子さん、歌:守屋さん)
- ・14年間を振り返る(古賀茂明さん、鎌田慧さん)
- ・柏崎刈羽再稼働をめぐる(小木曾茂子さん、福島瑞穂議員、山崎久隆さん)

15時15分・カンパ要請と音楽・朴保さん

- ・テントひろばから(座りこみメンバー、弁護団ほか)
- ・閉会あいさつ、クロージング音楽・守屋真実さん

当日は経済産業大臣(武藤容治様)・経産省の皆様、資源エネルギー庁長官(村瀬佳史様)資源エネルギー庁の皆様に対して、下記の要旨で抗議・申入書を提出いたします。

抗議・申入れ

核分裂で湯を沸かす原子力発電(=核発電)は危険でかつ地球を放射能汚染する。福島第一原発事故を起こした東京電力に柏崎刈羽原発の再稼働を許さない。

- 1.原子力発電は最大の地球環境の破壊装置(略)
- 2.福島は終わっていない(略)
- 3.誰も大事故の責任をとらず、再稼働が安全と言っていない(略)
- 4.柏崎刈羽原発の再稼働を許せない(略)
- 5.私たちの座込み行動を続ける想い

私たちは福島原発事故の半年後、2011年9月に経産省の一面にテントを張り、約1800日間脱原発を訴え続けてきた。2016年夏に、テントは最高裁

の不当判決を根拠に警察によって強制撤去されたが、その後も経産省本館前の歩道上にて土日休日以外の連日、座り込みを続けている。そして、毎週金曜日夕刻には1時間の抗議集会を行い経産省に脱原発と武器輸出入反対を訴え、経産省には脱原発を訴える抗議・申入書を毎月、提出している。

ところが、経産省と資源エネルギー庁では、311の事故直後から東電を潰さずに原子力発電を残す策略を練り、それを実行して現在に至っている。それは1~4で述べた通り、いま核発電を続けることは間違っている。直ちに脱原発を実現し、環境に配慮しながら再生可能エネルギーを活用していくことを強く要望する。最後に、私たち経産省前テントひろば、及び全国あるいは全世界の脱原発を訴える人たちの願いを真剣に受け止めて、核発電を止めて頂きたい。

茨城県東海村の村長選結果について

日本原子力発電(原電)東海第2原発が立地する茨城県東海村の村長選は去る7日に投開票され、無所属現職の山田修氏(64)が、いずれも無所属新人で元法律事務所事務局長の大名章文氏(69)、介護福祉士の根本華奈氏(34)を破り、4選を果たした。山田氏はこれまで東海第2原発の再稼働について態度を明確にしていなかったが、今年6月の村議会で容認の立場を表明。再稼働の可否が大きな争点になっていた。投票率は46.94%(前回49.96%)。当日有権者数は3万1313人。

山田氏は、村の広域避難計画を含む緊急時対応への国の了承と安全対策工事の完了を条件に、再稼働を認める方針を示しながら、原子力の「発電と研究は村の基幹産業」だとし、選挙結果を「(再稼働の是非の)判断材料の一つとしたい」と訴えて選挙戦(裏面へ)

に臨んだ。「再稼働容認」の態度を明確に示した理由に、「村の広域避難計画が3期目に策定できたこと」「国の第七次エネルギー基本計画が原子力発電の最大限の利活用を打ち出したこと」を挙げた。

大名氏は「住民合意のない再稼働は認めない」と公約。原発について「正確な情報を共有し、被ばくや帰還不能の避難になるリスクを村民一人一人が受け入れない限り、再稼働にかじは切れない」と訴え、住民アンケートの実施などを主張していた。根本氏は「どちらかというとな賛成」との姿勢を示した上で、「住民アンケートや住民投票をして村民の意見を聞く」としたが、いずれも及ばなかった。

◇茨城県東海村長選挙開票結果
当 10659 山田修 64 無所属現職 村長
2960 大名章文 69 無所属新人 元法律事務所事務局長
928 根本華奈 34 無所属新人 介護福祉士

上記は、東京新聞の記事を参照して作成した

報告 函館市大間原発建設差し止め裁判

第34回口頭弁論が9月2日(火)午後3時から東京地裁103号法廷で開催され、傍聴に行った。

100席近くの法廷には7割ほどの傍聴者が入り、原告側弁護団から「シビアアクシデント対策(水蒸気爆発の脅威)の規制の不備について」のスライドを使用した弁論が展開された。裁判長は、閉廷前に次回期日を12月24日(水)10時30分から、次々回は来年3月9日(月)14時から、いずれも103号法廷で行うと決定して閉廷した。

この日の裁判閉廷後は大間原発反対関東の会の主催で、衆議院第二議員会館・第1会議室にて裁判報告と講演会が開かれた。60名程が参加した会場では冒頭に2月の33回裁判に上京され、帰郷直後に亡くなられた竹田とし子さんのご冥福を祈り、黙とうを行った。また、元双葉町町長の井戸川さんが311原発事故前後の国、県の態度が一変した様子をお話しされ、本人訴訟として闘われている裁判の現状を報告。青木秀樹弁護士からは、本日の弁論内容について詳細に説明して頂いた。

「宗教者核燃裁判」原告団として活動されている内藤新吾さんの講演は、「デタラメな原発政策は、いったいどのようにして続いてきたか」というお話し。その詳細は彼の著書『原発問題の深層』(かんよう出版)に詳しく展開されているが、印象に残ったのは、彼の以下のような言葉だった。

この国は原子力を導入した最初から、いつか我が国も核武装したいというのが本音。そのことは最初の原子力予算を通したときの議案説明にも残っている。他にも、これまで幾人もの首相経験者や大物閣僚、また官僚たちから国会答弁などで、核兵器を持つことは憲法で禁じられていないと言葉が発せられてきた。いつか持ちたい。また、そのことで同盟国に商売したい、というのが彼らと、彼らを支援する経済界トップの願いなのだ。だから、やっとのことでアメリカを説得し手に入れた再処理工場および核燃料サイクル事業を、絶対に手放したくないのだ。原発はむしろ、核武装および核商売のためのオモテ向きの言い訳。以上

記:EO

さようなら原発 9.23 全国集会

ともに声をあげよう!—脱原発と気候正義のために

日時:2025年9月23日(火・休)

場所:代々木公園(JR山手線「原宿駅」、東京メトロ千代田線「明治神宮前駅」、千代田線「代々木公園駅」、小田急線「代々木八幡駅」下車)

プログラム

11:00~ ブース開店/ミニ・ステージ

13:00~ オープニング・ライブ

Yae(ヤエ) 半農半歌手/シンガーソングライター

13:30~ メイン・ステージ

発言者:「さようなら原発」一千万署名 市民の会
呼びかけ人

「ワタシのミライ」川崎彩子さん

高橋哲哉さん(哲学者、東京大学名誉教授) etc

15:00~ パレードへ(渋谷・原宿方面)

経産省前テントひろばもブース出店します

・本格焼酎「脱原発 no nukes」一本1500円

・書籍「淵上太郎遺稿集」:500円

2019年まで「テント」村長

「いま吉本隆明を問う」:2200円

生誕100年祭・記録集

「抵抗川柳句集-戦後八十年・治安維持法百年」700円

編集・レイバーネット日本川柳班

「しびらっこい女たち-原発いらない

ふくしまカレンダー2014-2022」1000円

・-DVD 映像で振り返る テントひろば

『おテントさまが見ている!』その時々各章

一枚100円 総集編:2巻セット:300円

集会・行動予定

◆9月10日(水) 12時~13時
原子力規制委員会前抗議行動(毎週水曜)

◆9月11日(木) 14時~16時
テントひろば14周年抗議行動
同日 再稼働阻止・東電本店前抗議行動17:00~18:30

◆9月12日(金) 17時~18時
経産省前抗議集会(毎週金曜)

主催:経産省前テントひろば 場所:経産省正門前

◎経産省前の座り込み行動は、平日:12時~16時(月~木)、

13~17時(金)◎土・日・休日:12時~15時(7月末まで)

なお、土・日・休日の座り込み行動を休止しています。

◆9月19日(金) 18:30~19:45
国会議事堂正門前 総がかり行動

◆9月23日(火・祝) 11時~
さようなら原発9・23全国集会
代々木公園にて、集会後にパレードあり

◆9月28日(日) 12時~15時
脱原発・青空川柳句会
主催:経産省前テントひろば・乱鬼龍

≪経産省前テントひろば≫

住所:〒105-0003 港区西新橋1-21-8 新虎ビル2F

・電話:070-6473-1947

・郵便振替口座=00160-3-267170

・口座名義=経済産業省前テントひろば

WEB:<http://tentohiroba.tumblr.com/>

Mail address: tentohiroba@gmail.com